

第 29 回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：優秀賞（高学年の部）

タイトル：わたしの町の誇り

氏名：皆川 舞夏（ミナガワ マイカ）

小学校名：長崎県 対馬市立金田小学校 五年

わたしの町のおまわりさんは、わたしたちにとって誇れる方です。わたしの町は、長崎県対馬市の佐須地区にあります。小さな町で、地域の金田小学校に通う小学生は三十六名しかいません。校区に佐須駐在所があつて、その駐在所に一名のおまわりさんがいらっしやいます。お名前は武内さんといいます。

武内さんを誇れる理由が二つあります。

まず、毎日の登下校の時に見回りをしてくれていることです。毎日、朝早くからパトカーに乗って地域の見回りをし、通学路のきけんな場所に立って、わたしたちが通り過ぎるまで見守ってくれます。一か月に一回の「あいさつプラスワン運動」のときはもちろん、きけんが無い日には、見回りの後に、先生方といっしょに校門で待っていてくれます。おかげで、わたしは毎日安心して登下校することができます。

昨年から今年にかけて、台風や大雨の日が多くありました。大雨のあとで、歩道をすごい勢いで水が横切っていた時は、わたしたちを、一人ずつかかえて反対側へわたしてくれました。とてもうれしかったです。

もう一つの誇れる理由は、地域の子ども一人一人の名前と顔、登下校の時刻をはあくしていることです。金田小学校では、曜日によって、学年の下校時刻がちがう日があります。人数が少ないので、一人で下校している子どもといっしょに下校してくれたり、朝、顔を見ていない子どもがいるときは、最後の一人が通るまで待ってくれたりします。武内さんが来られて今年で二年目なので、一年以上も毎朝活動を続けています。他にもいろいろな仕事があるのに、わたしたちの見えないところで、たくさん努力するのは、とてもすごいことだなと思いました。

運動会や「金田っ子の心を見つめる教育週間」などの行事のときにも、よく学校に来てくださり、わたしたちの勉強する姿を見てくれていました。特に、教育週間のときは、安全を守るために毎日ちょっとずつ顔を出してくださいました。

わたしも、おまわりさんのように、見えないところで努力できるような人になります。そして、しょう来、おまわりさんのように人の役に立てるような仕事につきたいです。わたしは、そんな人が世界中にたくさんいたらいいなと思います。